

## 医療機関における両立支援の取り組みに関する研究班（中村班）との連携

研究分担者：是永 匡紹 国立研究法人国立国際医療研究センター 肝炎情報センター

研究協力者：日浅 陽一（愛媛大学） 井上 泰輔（山梨大学） 池田 房雄（岡山大学）

佐藤 秀一（島根大） 井上 貴子（名古屋市立大） 伊藤 清顕（愛知医大）

**研究要旨：**ニッポン一億総活躍プラン(平成 28 年 6 月 2 日閣議決定)では、患者さんが、希望や能力、障害や病気の特性に応じて最大限活躍できる環境が必要であると記載されており、このために治療と職業生活を支援する（＝両立支援）ことが重要とされた。また、平成 28 年 2 月 23 日に企業向けに作成された「病気を抱える方の治療と仕事の両立支援に関するガイドライン」には、肝疾患に関する留意事項が追記されており、肝疾患を含めた医療機関に通院・入院する働く人達への配慮、患者さんに辞めさせない意思決定をさせることは、これまで以上に重要となった。このような背景もあり両立支援を周知・促進させるため、平成 29 年度より、肝炎情報センターが有するネットワークをいかし、モデル病院での両立支援チームを構築し、院内相談支援体制の充実や、産業保健総合支援センター・労働局等と連携によって支援プランの実践を行っており、成功事例を全国に紹介、展開することを目標とする。

### A. 研究目的

ニッポン一億総活躍プラン)では、患者さんが、希望や能力、障害や病気の特性に応じて最大限活躍できる環境が必要であると記載されており、このために治療と職業生活を支援する（＝両立支援）ことが重要とされた。また、「病気を抱える方の治療と仕事の両立支援に関するガイドライン」には、肝疾患に関する留意事項が追記されており、肝疾患を含めた医療機関に通院・入院する働く人達への配慮、患者さんに辞めさせない意思決定をさせることは、これまで以上に重要となった。その一方で、昨年度の調査で肝がん患者さん半数が働いているものの、多くは高齢者でかつ、自営業・第一産業であり、両立支援の必要性は不明であった。また肝疾患連携拠点病院では、相談支援センターが併設されているも、院外からの電話対応が主であり、外来・入院患者さんへの相談体制の充実は今後の課題である。本研究では、両立支援の周知・促進させること念頭に、モデル病院での両立支援チームを構築すること、また相談支援体

制の充実や支援プランの実践を行うことを目的とする

### B. 研究方法

**検討 1：**肝疾患連携拠点病院である A 病院での令和元年度両立支援に対する進行状況を調査した。

**検討 2：**肝疾患診療連携拠点病院における相談内容における就労・両立支援に関わる相談件数を調査した

### C. 研究結果

#### A 病院での肝疾患に特化した両立支援モデル事業

A 病院では 5 年前より内科外来の診察室にて、週 1 回、社会保険労務士 5 名が交代で、一回の相談時間は 60 分で相談料は無料で肝疾患について相談を行っている。相談人数は、平成 26 年 10 月の開設から令和元年 9 月までで、約 250 名、性別に差を認めず、40～50 代が半数をしめた。疾患別にみると、徐々に C 型肝炎が減少し、脂肪肝が増加し、

肝疾患相談者の背景が、この5年間で変化していることが明らかになった。(図1,2)。

**図1 肝疾患就労相談受診者の背景**

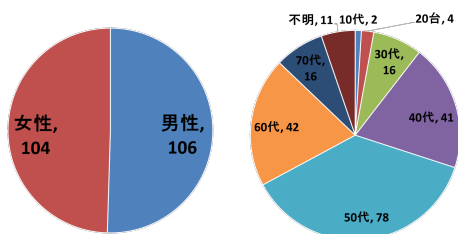
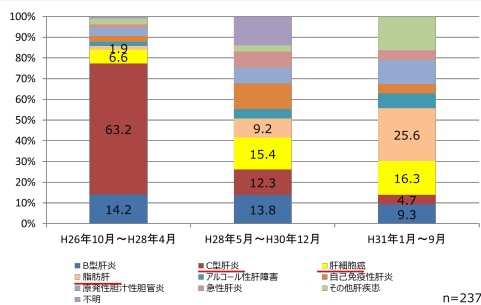


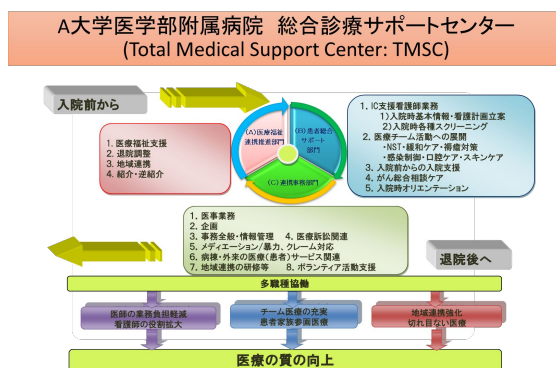
図2肝疾患就労相談受診者における基礎疾患の推移



両立支援は、就業者が仕事を辞めない意志決定を支援することがスタート地点であり、正規雇用者、非正規雇用者が相談対象であるが、自営業・正規雇用・非正規雇用・無職のいずれの就業形態でも利用があった。

A病院での肝疾患から全疾患を対象とした両立支援の取り組み

A 病院では、総合診療サポートセンター (Total Medical Support Center: TMSC) を設置し、患者総合サポート部門の中で IC 支援看護師業務として、入院時基本情報・看護計画立案や入院時各種スクリーニングを行っている。そこで肝疾患診療相談センターが肝疾患に特化した形で開始し、成果を上げてきた の両立支援と、TMSC が行っている患者サポートを融合し、**肝疾患以外の疾患にも両立支援を拡大することを考えた。**



具体的には、入院が決定した患者全員に行う質問票（図3）に、「経済的な問題や制度について相談したい」、「治療と仕事や学業の両立について相談したい」というチェック項目を設け、該当患者について社会保険労務士による相談を積極的に勧めた。

### 図3 入院患者への事前質問票の改訂

[illegible]

その結果、両立支援について相談希望をする入院予定患者は 2 倍に増加し(図 4)、がん症例以外にも同等に要望があること(図 5)、入院時に両立支援に対する問診が有効であることが明らかになった(図 6)。

図4 TMSCにおける就労・両立支援スクリーニングと相談数

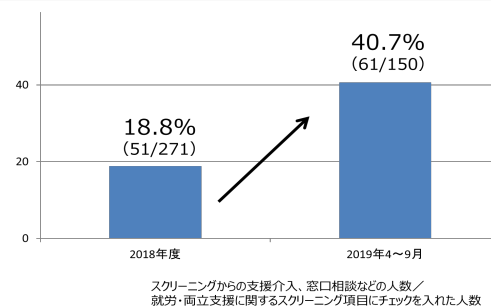


図5 TMSCにおけるMSWによる両立支援の実施数

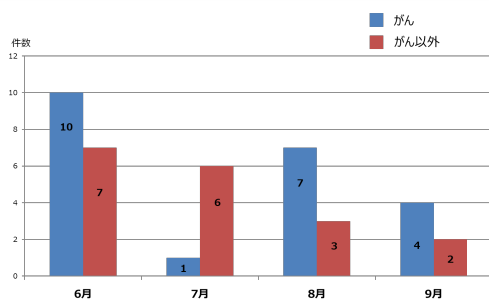
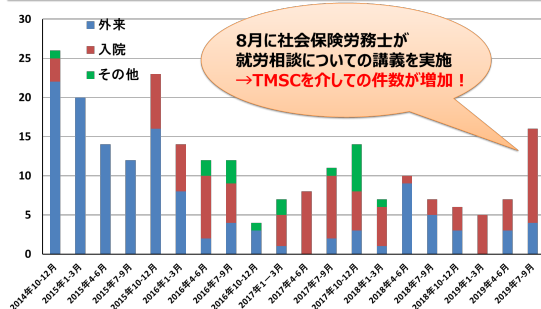


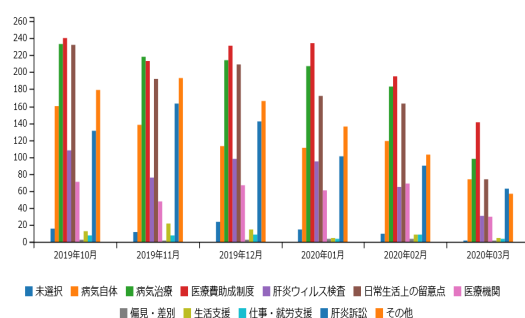
図6 入院患者の相談件数が増加



TMSC との連携により肝疾患以外の割合が明らかに増加しており悪性腫瘍・神経疾患・病的肥満・膠原病など様々であり、現行の体制を拡大するかたちで、多くの疾患に相談対応が可能となった。

## 肝疾患拠点病院における就労・両立支援

全国



A病院モデルを拠点病院の連絡協議会や政策研究班で共有するが、「仕事・就労支援」に関する相談件数は微増に留まった。更なる周知のために、厚生労働科学研究費 肝炎等克服政策研究事業「職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究班」と連携してホームページを作成、肝炎・肝がん治療の際に必要な業務状の配慮を纏めた。



## D. 考察

全国 71 の肝疾患連携拠点病院には、肝疾患に対する相談・支援センターが設置されており、相談員、また自治体より認定された肝疾患医療コーディネーター(Co)により、肝疾患患者さんを病院内外で受診・受療へと調整している。肝 Co は看護師だけでなく、保健師、薬剤師、MSW、栄養士、検査技師等の多職種で構成されており、肝疾患をモデルケースとして、受身ではなく、積極的に対象症例を「アウトリーチ」し、チーム医療として相談・支援体制を充実させ、全国に先駆けて展開していくことが重要である。

モデルである A 病院でも、まず相談対応できる場所(導線)を明示することが第一歩であることが明白で、その為にも、相談できる場所の周知、初診・入院決定時、入院時の問診時に、職業について悩みを聞き取り、速やかに相談させることが必要である。癌だけで

はなく様々な疾患にも相談のニーズがあり、両立支援の周知を行うためには、診療報酬が認められた癌以外に疾患にも相談できる体制を構築していくことも考慮すべきである。

肝疾患の両立支援を肝臓専門医に周知すること、また産業医へ肝炎ウイルス検査の重要性は共有するため令和元年5月31日に、日本産業衛生学会と日本肝臓学会が合同で、連携フォーラムを開催し、両学会理事長も参加された。(図7)



フォーラム内で業衛生学会理事長より 事業所・病院とも両立支援を行っていることを明確にする→その中で事業所の中で産業医の存在を(産業医がだれか労働者もわかっていない)

肝炎ウイルス検査について、「多少理解が十分でなかった可能性があり」

とのコメントを頂き、学会から周知必要性から今後も連携継続するために担当理事を決めることになり、更なる周知に繋がることに期待する。

肝疾患の多くが、就労を継続しながら通院・治療をされている一方で、中小企業、第一次産業も多く、事業所と医療機関で行われる両立支援のプラン(意見書)作成といった対応だけでは支援は困難であり、労働局、産業保健総合支援センターとの連携は必須で、その実行モデルが必要である。

## E. 結論

肝がん症例への両立支援プラン作成対象者は少ないも、診断初期からの相談・支援が

できる環境が必要であり、初診・入院時等で両立支援の相談が可能なことを周知する必要がある。

相談員・肝 Co による相談・支援体制が稼働している肝疾患連携拠点病院の利点を生かし、多職種による院内連携(チーム医療)を強化し、待っているだけでなく積極的なアウトリーチを行うと同時に、外部の産業衛生保健スタッフと共有できる環境づくりが急務である。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

なし

### 2. 学会発表等

- 是永 匡紹, 井出 達也, 考藤 達哉  
職域肝炎ウイルス検査状況と陽性者の効率的なフォローアップシステム開発  
第103回日本消化器病学会総会  
パネルディスカッション 金沢  
令和元年5月9日
- 是永 匡紹, 立道昌幸, 大江千恵子, 上村景子, 福吉順 職場における肝炎ウイルス検査促進と陽性者の受診行動～厚生労働省研究班より～  
第92回 日本産業衛生学会  
口演 名古屋 令和元年5月22日
- 是永 匡紹 職域肝炎ウイルス検査・陽性者に対する取り組みと課題 日本医学会連合 加盟学会連携フォーラム 治療と仕事の両立支援とは? 肝疾患ができること 口演 新宿 2019年6月1日  
主催 日本肝臓学会
- 是永 匡紹 両立支援に必要な知識-(2) 肝疾患 日本医師会認定 東京都 医師会・慈恵医師会産業医研修会  
口演 品川 主催 東京都医師会

- **Masaaki Korenaga**, Chieko Ohe, Mrs. Keiko Kamimura, Jun Fukuyoshi, Tatsuya Ide, Hideaki Okada, Fumiyasu Kato, Satoshi Mochida, Takako Inoue, Dr. Isao Hidaka, Takemi Akahane and Tatsuya Kanto. TAILORED MESSAGE INTERVENTIONS USING SOCIAL MARKETING APPROACH INCREASE THE NUMBER OF PARTICIPANTS IN VIRAL HEPATITIS SCREENING FOR JAPANESE WORKERS -MULTICENTER TRIAL OF 880,000 GENERAL CHECKUP APPLICANTS. AASLD2019 (アメリカ肝臓病学会 2019)  
Poster Boston ポストン  
令和元年 11 月 8 日
- **是永 匡紹**, 井出 達也, 考藤 達哉 肝炎ウイルス陽性者はどこにいるのか? ~ 職域における陽性率と受診行動 ~ 第 23 回日本肝臓大会 ワークショップ  
神戸 令和元年 11 月 22 日  
埼玉支部・埼玉県 (2018 年 11 月 埼玉)
- **是永 匡紹** 「治療と仕事の両立支援について」令和元年度職域向けウイルス性肝炎研修会 コーディネーター養成コース 1 (事業主や総務、人事担当など医療関係の資格をお持ちでない方を対象)  
令和 2 年 1 月 30 日 主催 東京都福祉保健局保健政策部疾病対策課
- **是永 匡紹** 「治療と仕事の両立支援について」 令和元年度職域向けウイルス性肝炎研修会 コーディネーター養成コース II (産業医や保健師など医療関係の資格をお持ちの方を対象)  
令和 2 年 1 月 23 日 主催 東京都福祉保健局保健政策部疾病対策課

3. その他  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし